

令和5年8月10日（木）

台風6号による入域観光客数見通しの変更および 県内ホテル客室単価概況について

1. 台風6号による8月入域観光客数見通しの変更について

台風6号により、7月30日以降8月7日にかけて9日間、国内外航空便の大規模な欠航が発生し、当初見込みより入域観光客数の大幅な減少が見込まれます。

国内空路に関しては6月28日時点より約7万人減の68万人となる見通しです。海外空路に関しても国内空路と同様に欠航便が多発したことから約0.5万人減の6.5万人となり、海外海路についても欠航が1回発生した影響で0.9万人減少となる見込みです。

8月入域観光客数(人)	6月28日時点※	8月9日時点	差分
国内空路	750,000	680,000	▲70,000
国内海路	1,000	1,000	0
海外空路	70,000	65,000	▲5,000
海外海路	29,000	20,000	▲9,000
合計	850,000	766,000	▲84,000

※6月期定例記者懇談会（6月28日）にてプレスリリースした入域観光客数見通し

2. 県内ホテル客室単価概況について（新規）

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下OCVB）は、これまで発表してきた入域観光客数見通しに加え、観光の質を表す指標として、「県内ホテル客室単価概況」について、定期的に発表することと致します。「県内ホテル単価概況」は県内ホテルや旅行会社、OTAへのヒアリングによるOCVB独自調査で、沖縄本島リゾート、離島地区リゾート、シティホテルのホテル区分ごとに客室単価の実績と見通しを算出しております。

【お問い合わせ先】

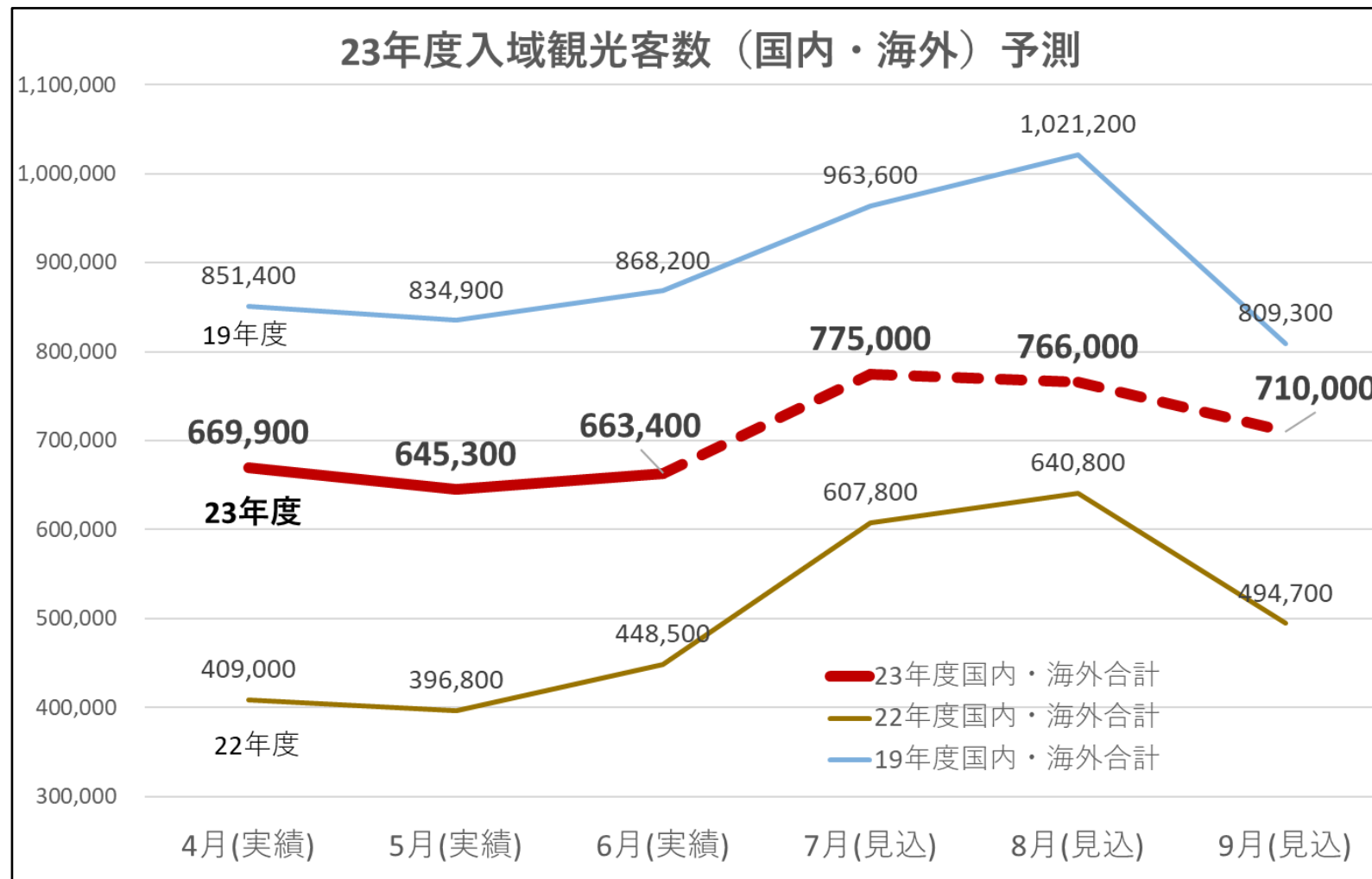
（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
企画・施設事業部 企画課
担当：高安
TEL：098-859-6126 FAX：098-859-2981
Mail：s.takayasu@ocvb.or.jp

入域観光客数概況および県内ホテル客室単価概況(新規) (23年4月～6月実績および7月～9月見通し)

1. 23年度4月-6月入域観光客数実績および7月-9月見通しについて

	4月(実績)	5月(実績)	6月(実績)	7月(見込)	8月(見込)	9月(見込)	7-9月計	4-9月計
23年度国内(空路)	601,700	564,200	577,300	660,000	680,000	600,000	1,940,000	3,683,200
23年度国内(海路)	1,400	11,100	8,400	6,000	1,000	2,000	9,000	29,900
23年度海外(空路)	60,300	63,400	68,100	75,000	65,000	70,000	210,000	401,800
23年度海外(海路)	6,500	6,600	9,600	34,000	20,000	38,000	92,000	114,700
23年度国内・海外合計	669,900	645,300	663,400	775,000	766,000	710,000	2,251,000	4,229,600
22年度対比(国内・海外)	163.8%	162.6%	147.9%	127.5%	119.5%	143.5%	129.1%	141.1%
19年度対比(国内・海外)	78.7%	77.3%	76.4%	80.4%	75.0%	87.7%	80.6%	79.1%

※海路については沖縄の各港で予定されているクルーズ船が全て寄港した場合を想定して算出



入域観光客数概況および県内ホテル客室単価概況(新規) (23年4月～6月実績および7月～9月見通し)

2023年8月10日
OCVB

1. 23年度6月入域観光客数実績および7月-9月見通しについて

(概況)

国内入域についてはFIBAバスケットボールワールドカップ等の開催など、各種イベントの通常開催により旅行需要は引き続き好調に推移すると見込まれるが、台風6号の影響が大きく、8月に関しては当初見込みより大幅に減少する見込み。

海外入域については、空路は運航再開している路線(台北、韓国仁川、上海、香港)については予約が堅調に推移しているが、全体の運航便数はコロナ前の5割程度の水準に留まっている。クルーズ入域に関しては、8月以降も引き続き基隆や上海など海外発クルーズ船入港が予定されている。台風6号の影響で当初見込みより減少し、入域観光客数についてはコロナ前の3割弱の水準となる見通し。

(詳細)

・7月 :【国内】(空路)全国旅行支援効果や夏休み需要、航空各社の増便等により、入域観光客数は66万人(19年7月対比100.9%)と見込む。
特に東京・大阪発沖縄線(離島直行便含む)の需要が高い。

(海路)横浜港から2回入港予定。入域客数は0.6万人(19年7月対比87.0%)となる見通し。

【海外】(空路)中国東方航空の上海線が運航再開(1日1往復)や、仁川那覇線の増便(ジンエアー:7月21日～8月27日)により入域客数は7.5万人(19年7月対比43.1%)となる見通し。

(海路)台湾(基隆)から8回入港予定。入域客数は3.4万人(19年7月対比26.4%)となる見通し。

・8月 :【国内】(空路)夏休み需要やFIBAバスケットワールドカップ等による高需要が見込まれるが、初旬の台風6号の影響が大きく、当初見込みより大幅に下がり68万人※(19年8月対比92.4%)と見込む。特に東京・大阪発沖縄線(離島直行便含む)の需要が高い。

(海路)横浜港から1回入港予定。入域客数は0.1万人(19年8月対比41.7%)となる見通し。

【海外】(空路)仁川那覇線の増便(ジンエアー:7月21日～8月27日)やパティックエアーマレーシアのクアラルンプール線就航(週4便:8月16日～)等が予定されているが、台風6号の影響による欠航便の発生により入域客数は6.5万人※(19年8月対比43.3%)となる見通し。

(海路)台湾(基隆)6回、中国(上海)1回の計7回入港予定。入域客数は2万人(19年8月対比15.0%)となる見通し。

・9月 :【国内】(空路)コロナ前とほぼ同水準の60万人(19年9月対比101.8%)と見込む。

(海路)神戸港1回、横浜港1回、計2回入港予定。入域客数は0.2万人(19年9月対比153.8%)となる見通し。

【海外】(空路)入域客数は7万人(19年9月対比57.9%)となる見通し。

(海路)台湾(基隆、高雄)8回、中国(上海)4回、の計12回入港予定。入域客数は3.8万人(19年9月対比38.8%)となる見通し。

※8月の見通し(国内・海外空路)については台風6号の影響を考慮。

入域観光客数概況および県内ホテル客室単価概況(新規) (23年4月～6月実績および7月～9月見通し)

2023年8月10日
OCVB

2. 23年度4月-6月修学旅行実績および23年度見通しについて

	実績			見通し									年度合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
23年度学校数	116	284	160	23	4	40	313	348	265	78	80	53	1,764
23年度人数	15,243	37,331	26,120	5,227	165	7,075	65,052	78,977	50,084	14,596	15,600	10,776	326,246
22年度比	134.3%	276.4%	176.5%	169.6%	1031.3%	104.9%	124.0%	123.4%	104.3%	101.1%	103.6%	72.0%	126.2%
22年度学校数	64	95	93	19	1	35	271	302	252	82	82	74	1,370
22年度人数	11,349	13,506	14,799	3,082	16	6,743	52,479	64,014	48,000	14,441	15,059	14,957	258,445
19年度比	63.7%	68.3%	79.6%	174.3%	94.8%	49.2%	86.2%	97.9%	70.1%	62.6%	67.9%	138.4%	79.4%
19年度学校数	205	431	224	25	3	69	367	395	381	123	139	53	2,415
19年度人数	23,927	54,685	32,825	2,999	174	14,370	75,492	80,663	71,493	23,329	22,981	7,785	410,723

※23年度学校数、人数は7月4日時点、旅行社15社中7社からの回答により推定(OCVB調査)
 ※22年度学校数、人数は5月9日時点、旅行社15社中8社からの回答により推定(OCVB調査)
 ※19年度学校数、人数は沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課実績より抜粋

(参考)
 2011年度 学校数 2,686校
 人数 451,550人
 (過去最高)

(概況)

4月～6月の実績については前年を大きく超える水準で推移した。19年度と比較しても60%を超える水準まで回復している。

夏休みに入る7-8月はもともと修学旅行の件数は少ないものの、校数は19年度と同等程度となっている。

23年度下期については10月から12月に修学旅行受入が集中している。年度合計人数では19年度の約8割の水準まで回復する見通し。

入域観光客数概況および県内ホテル客室単価概況（新規） （23年4月～6月実績および7月～9月見通し）

2023年8月10日
OCVB

3. 23年度4月～6月県内ホテル客室単価実績および7月～9月見通しについて

ホテル区分	実績（1客室あたりの単価）						見通し（1客室あたりの単価）					
	4月	前年比	5月	前年比	6月	前年比	7月	前年比	8月	前年比	9月	前年比
本島リゾート	¥25,206	108.2%	¥32,374	107.5%	¥28,106	119.8%	¥40,993	122.0%	¥53,614	117.4%	¥31,893	121.0%
離島リゾート	¥26,473	120.5%	¥33,100	124.8%	¥28,586	138.7%	¥34,787	110.9%	¥51,546	115.7%	¥27,317	105.5%
シティホテル	¥13,875	134.0%	¥14,888	125.4%	¥14,574	149.0%	¥16,555	136.2%	¥19,167	133.7%	¥15,782	140.3%

（OCVB独自調査）※上記ホテル客室単価実績および見通しについては、OCVBがヒアリングした約330のホテルの平均値

（概況）

・コロナが5類に移行し、旅行マインドが堅調であったこと、物価高等の要因により、4月～6月の県内ホテル客室単価実績については、上表の通り、前年度比で大きく伸びている。

7月から8月の見通しについても、旅行目的地として沖縄が人気ということもあり、需要の伸びが顕著であることにより各ホテル区分ごとの客室単価については前年を大きく超える水準で推移する見込み。

今後も高単価のラグジュアリーホテルの開業が増えていること、引き続き需要が旺盛な状況が見込まれることから、高単価で推移することが見込まれる一方で、人材不足による稼働への影響、物価高・原油高によるコスト増の影響等、課題も懸念される。

（県内ホテルや旅行会社、OTAへのヒアリングによるOCVB独自調査）